

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

気軽に借りて♪どこでも返却♪

#### 2 取組期間

平成28年度～（継続中）

#### 3 取組概要

五所川原圏域図書館の相互利用を促進するネットワークを構築することで効率的な運営を図るとともに圏域住民への図書館サービスの充実・向上を目指すという目標のもと、初めに、圏域住民は圏域図書館で気軽に借りることができるように「青森県内図書館共通利用券」の提示を不要とする取り組みを行った。圏域貸出が増えるにつれて、「どこにでも返せればいいのに。」という声が増えてきたことに応える形で、次に圏域図書館で借りた本は圏域図書館のどこにでも返せる「どこでも返却」を開始した。

※青森県内図書館共通利用券・・・青森県内の図書館及び公民館図書室等によって構成される青森県図書館連絡協議会の図書館網推進事業の一つで、共通利用券を持参することにより、利用者は自治体の枠を越えて各館を利用することができる、青森県独自の取り組み。



## 4 背景・目的

### ○背景

当市を含む五所川原圏域（2市4町）は、「図書館」が多くの住民に浸透しているとは言えず、また、6市町の内、図書館未設置自治体は3町となっている。そのような当地区での図書館サービス提供拡大につなげる政策として定住自立圏構想を捉え、五所川原圏域定住自立圏共生ビジョン（平成28年9月策定）で図書館サービスの連携と充実を具体的取り組みとして掲げた。

同時期に圏域のつがる市に図書館が開館することになり、全国初となるイオンモール内の図書館ということにつがる市民のみならず五所川原圏域定住自立圏内の住民にとって新館開館に寄せる期待は大変大きいものだった。しかし、自治体を越えて図書館を利用するためには、「青森県内図書館共通利用券」を住所地の図書館や公民館であらかじめ作り、利用したい図書館で提示しその図書館の貸出券を作ってやっと利用できるようになるというわずらわしさもあり、これまでも特に図書館のない町の方へは図書館サービスが思うように届かないことにもつながっていた。加えて、つがる市立図書館開館当初は混雑が予想される中、共通利用券の説明をすることによってせつかくの新規図書館利用者が増えるチャンスを逃すことになってしまったことも危惧された。

こういった背景から、圏域3図書館職員間で話し合いを重ね、現状把握することからはじめ、目指す姿を共有し、サービス向上のための具体的な連携内容を決めていった。

### ○目的

- ・図書館のない町の方へも図書館サービスが届くようにすること
- ・圏域図書館を自由に利用できる仕組みを考え実施することで1館では不足している機能を補いサービス向上を図ること

## 5 取組の具体的内容

初めに取り組んだのが圏域での「青森県内図書館共通利用券」の廃止である。

つがる市立図書館の開館日に合わせ、平成28年7月29日より、五所川原圏域定住自立圏の住民は、「青森県内図書館共通利用券」なしで利用することができるようにした。

### お近くの図書館利用が便利になります

～五所川原圏域定住自立圏図書館ネットワーク構築事業～

五所川原圏域定住自立圏内の6市町（五所川原市、つがる市、中泊町、鶴田町、鎌ヶ沢町、深浦町）にお住まいの方は、平成28年7月29日より、6市町すべての図書館及び図書室を、身分証明書の提示だけで利用することができます。



#### 利用方法

- 登録、貸出方法は市町によって異なりますので、利用する図書館等の規則に従って、ご利用ください。
- 返却の際は、借りた図書館等にお返しください。
- 相互貸借サービス、リクエストサービスは、お住まいの地域の図書館等にお申込みください。



五所川原市立図書館  
☎ 0173-24-4384



つがる市立図書館  
☎ 0178-25-6131



中泊町図書館  
☎ 0173-22-1111

#### 鶴田町公民館

☎ 0173-22-2818

#### 日本海奥点鮎町の図書館

☎ 0173-72-6666

#### 「人まの館」ふるあひま女子館

☎ 0173-54-1010

圏域貸出が増えるにつれて、「どこにでも返せればいいのに。」という声が増えてきたことに応える形で、圏域図書館で借りた本は圏域図書館のどこにでも返せる「どこでも返却」を平成30年5月1日から開始した。物流は、人員・車・地理的状况から当館が担っている。

五所川原市・つがる市・中泊町

五所川原圏域図書館の新たな挑戦！

# どこでも返却

平成30年5月からスタート

3図書館連携

気軽に借りて  
気軽に返せる！

買い物やお出かけの  
ついでに  
返却が可能！

つがる市立図書館へ

五所川原市立図書館へ  
(伊藤忠吉記念図書館・市港分館もOK)

中泊町図書館へ  
(中泊町日本海漁火センターもOK)

お願い 3館以外の資料は借りた図書館へ返却してください。  
返却処理が完了するまで1週間程度かかりますのでご了承ください。

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・利用者の皆さんの声を聞くことと、人・組織・資料・情報のネットワークを大切にすることを圏域図書館職員みんなで共有できるように話し合いを重ねた。サービス提供側の理念共有は意欲向上にも通じることを実感しながら一歩ずつサービス向上に挑戦している。
- ・自治体を越えての事業調整の経験が少なく不安だったので、青森県立図書館の職員の方に話し合いに加わっていただきアドバイスをいただいたことが短期間での実施につながった。

## 7 取組の効果・費用

利用者の方へは・・・「青森県内図書館共通利用券」なしで借りることができ、圏域図書館のどの館にでも返せるので、気軽に図書館資料の利用ができることになり、新たな図書館利用とリピーター増につながっている。借りる図書館と返す図書館を選べることは、利用できる蔵書が多種多様になり、より充実した図書館利用につながっている。

職員間では・・・小さい図書館・少ない職員が理由で諦めていたサービス向上施策をみんなで考え実施し、利用者の方に届いていることを実感できることがさらなるサービス向上を目指す意欲向上につながっている。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・限られた人員と予算の中で圏域の図書館サービスを向上し利用していただくための施策を絞ることが難しかった。
- ・これまで図書館のある3市町で検討・実施してきたが、図書館のない自治体へのサービス提供についてどのように進めていけばいいのかが課題である。

## 9 今後の予定・構想

築いてきたネットワークを基礎として、今後も圏域図書館を最大限利用していただくためにできることをみんなで考え、実施していきたい。将来は、図書館システム連携ができればサービス提供の質も効率も良くなるが、費用の面が大きな課題である。

## 10 他団体へのアドバイス

小規模図書館は1館では図書館の機能を存分に発揮することは難しいですが、強みを活かして連携するとパワーアップ!図書館が機能し始めます。利用される方の声を聞いて職員同士楽しく意識共有意欲向上を図りながら、小さいことからでも始めてみると役に立つ図書館に近づきますよ!

近くに仲間ができることは、相談もしやすくなり、結果、速度アップして図書館サービス向上につながります。

## 11 取組について記載したホームページ

五所川原市立図書館ホームページ 近隣の図書館のご利用（広域利用）  
<http://www.city.goshogawara.lg.jp/lib/guide/neighborhood.html>